



潮見小学校校修記

潮見小学校というのならば海の見えるところから推して、学校の所在がわからず尋ね回っている時、会員の中から声があつた。海からは遠い、佐世保海を見つるす山の上の立つ校舎、教育的環境設備は整い、講堂、プールなどの施設も立派、生徒数約八〇〇で有友会活動も三小とさほど違つてはいないと思ふが、到着した時は校長先生はじめPTA会長、各部々長が公共研修団を待ちうけていた。そして、活動内容の説明や私共の質問に対しての応答、更に私共に対しての質問を待ち出した。その自主的な活動と熱意に感動した。婦人会員の湯茶接待にも私共に対する敬意が強く感じられ印象に残つた。懇談の中で、その活発な活動に対する感謝が深まるばかりであつたが、その一端を紹介してみよう。

研修旅行に参加して

佐世保市 潮見小学校 小見浦 小見浦 小見浦

給食は、市内三十五の小学校から配送をうける。給食会資金は市から無利子で借り、現金によって献立は市内同じであるが、月一回PTA副会長(女性)が市教育委員会の半費生に献立をきめ、全家庭に配布する。又、各学期一回試食会を開き、希望、意見をとり入れるという。このこと、ほんの一例であるが、常に子どもに身になって活動が熱意となり、活発化する原因となつてゐる。私共もこの大きな示唆を受け、同時に深い感銘を受けた。

相ノ浦小を参観して

本年度の三小有友会研修旅行は、五月二十二日(木)佐世保市内、相ノ浦小学校、潮見小学校の両校で二校に分れて、それぞれ目的の研修をした。相ノ浦小学校での研修では、特色を生かした専門部が組織され、庶務、環境整備、婦人、児童福祉、文化、環境整備、地域、児童の八つの部会からなり組織化された各部会が、各地区の連合体、地域ぐるみの協力を得て、学校の手をわづらわさないうちの企画運営がなされていることを知り、各会部の活動で、婦人部の意欲的な自主活動

交通指導と関連し一声運動(おはよう、こんにちは) 毎月二回の高低学年の学校参観、夏休中の会員奉仕作業、地域ぐるみの子ども会子どもを守る育成会、鍵の子のためのひばり学級指導会などが、又各地から、研修指導のため、有友会役員による、接待がなされていまして、他にも多くの学ぶべき点がありました。こうした意欲的且つ自主的な活動状況が、文部大臣賞受賞校となつたと考えられます。三小有友会として、両校のよい面を取り入れて、特色ある有友会に育てたいものだと思ふ。当日は天候もめぐまれました。全員無事に研修の目的を終え、弓張岳の眺望を光のしみ、和気あふましいのうちに、会員相互の親睦をはかりながら、有意義な研修旅行を終えたいことを、有友会全員の皆さんに、御報告致します。

研修旅行を終えて

梅沢 武末 島原を後に車で帰られると三時間余、目的地佐世保市街に入る。曲りくねつた坂道を右に左にのぼる。佐世保港を見下す高台に降り立つ。それより徒歩で潮見小学校の校門に着いた。

甘い花の匂いのたぐやう校門をくぐり先づ体育館に入る。排舞の中村地好さんによく似た中村校長先生体格の立派な履原会長外各部部長さん数名に迎えられる。お茶の接待を受ける。潮見小学校は昭和九年創立生徒数八百を近く四拾年の記念の運動会があるとききました。先づ教育費の父兄負担のことで有友会費の他(学級費、図書、視聴覚費)等は全部市の負担、給食費も材料の一括購入、五百万の現金仕入れ資金(市無利子貸付)等、我島原市の財政では無理かと思われますが思わせられる点です。プールは五コースの小さい物でしたが、校舎は三十八年建設と新しく三小に比べると新しく明るく机もスチール製の上下式、椅子も自由な回転で立派な様子でした。校区外に建てられた学校で、交通安全の点は、非常に苦心されていると聞き出しましたが、具体的な時間はわかりませんが、具体的には、予定の六時無事島原に帰りました。

長女の入学

福島 すい子 長女が小学校に入学してから、二ヶ月がまたたく間に過ぎた。二ヶ月はじめてよちよちと歩きだした家族全員が大喜びしたこと、急に発熱して幼稚園に通つたことなど、ついでに頃のものに思い出されて、いままさながら月日のたつのが早いのに驚いている。

入学式を間近にひかえ、子どもは折敷敷いてその日の来るのを待ち望んでいたが、親は「元気で毎日通学できるのだからいいか」、「一学校で生活しなうまくとけこめるだろうか」、「など不安でおちつかない毎日だった。このよりの親の気持ちを知ってか知らずか、突然交通事故にあつたが、親の心配をよそに二ヶ月を経て毎日元気に通学しているわが子の姿を見て安堵の胸をなでまわしている。子どもは順応力のすばらしさは大人顔負けである。

胸はずませて 入学式へ



授業参観雑感 一年生の父兄、第一回の参観の時、うしろの方に立って参観しており、父兄の方が見ながら手を上げたか上げないかわからないようにあげる子どももいました。ところが第二回目の参観の時、もう父兄が気にならないうちの上に着ちんと手をあげておりましたので少しは学校生活になれて来たのだと思ひました。

Table with 2 columns: 男子 (98名), 女子 (94名). Title: 入学児童数

私のうちの子ども、自分のうちでは食事の時、何やかやと云って食べませんが、喜んで給食を頂いているのを見て安心いたしました。二回目の参観ですが、今回の参観を通して感じたことは、子どもが団体生活になじみ、元気よく、はきはきした態度と、それに加えて学習態度の機敏さに大きな進歩を知りました。この短い期間に、こんなにも学校生活になれ、楽しそうに勉強している子どもたちの姿を見て、親として心から感謝いたしております。

学校から帰るなり、目を輝かして一日のできごとを語っている。友達の喜ぶに満ちあふれている。友達のことは、先生のこと、勉強のこと、その話ぶりは毎日楽しくてたまらないよかったです。早くに話す子どもの話を聞いて、どのほのほとした幸福感に満たされて、一日の仕事の疲れも一瞬に消えてしまふ。ほんの二ヶ月の短かい学校生活であるが、子どももだいたい成長したよりに感じる。規則正しい生活を送っているせい、生活態度もおちついてきて、弟の世話もよくしてくれる。弟との争いなども少なくなつた。からだも一段とたくましさが増したようだ。家庭生活では得られない集団生活のすばらしさをつくづく感じるとともに、腕白さかりの子どもを担任された先生の苦勞は大変だ。今日も夕食後机に向つてなにやら勉強しているようだ。私は子どものすこやかな成長を心から祈つている。

新しい先生の紹介

Grid of teacher portraits and names: 金崎 リン子 (3小小学校より 3の3担任), 大隅 謙一郎 (第一小学校より 5の1担任), 長岡 裕子 (南高多比良小学校より 6の4担任), 坂本 正英 (三小小学校より 5の5担任), 尾崎 勝 (長大研究科より 3の2担任), 荒木 泰子 (第一小学校より 4の2担任), 木下 利之 (三小小学校より 理科専科担当).

各班だより

研修班 班会は五月三十一日に開き、左記の事項につき協議決定いたしました。一、両親学級の運営について。二、講演会開催について。三、研修旅行について。参加人員について検討の必要がある。五月町内育友会の「開始時刻の厳守」と「出席率」の状況 1 厳守された町内 8 2 最高出席率 60分おくれ 3 平均20分おくれ 4 出席率 平均52% 5 最高出席率 86% 「元舟津」 6 最低出席率 18% 7 出席率上位5町内 元舟津・蛭子鼻・広馬場下・白土上 南津町

後記 育友会報、第十四号をお届けします。新育友会による組織も決つて、活動の方向が決定されました。「みんなの声」を反映させ、愛された「みんなの声」を育てて下さい。そのためにみなさんのご指導を切望する次第です。